

分娩難易と産子性別の活用について

検定成績表には、各検定牛ごとに分娩情報として、分娩年月日と産次、産子性別、分娩難易が表示されています。今回は、繁殖管理の基本である分娩難易と産子性別の利用方法を紹介します。

分娩難易と産子性別は、繁殖管理にとって極めて重要な意味を持っています。

分娩難易が3, 4, 5と難産であった場合や産子性別が双子以上であった場合は、子宮内膜炎などの繁殖障害を引き起こすリスクを3～4倍も高めてしまうことが知られているからです。また、低乳量を伴うこともしばしばです。検定成績表にずっと分娩難易と産子性別が表示されているのは、こういった飼養管理上気をつけないといけない牛を注意喚起するためです。分娩後2～3カ月も経過してから、「あれ？発情がおかしいな」とあわてないようにしましょう。

また、検定成績表をざっと見渡した時に、難産が多いような場合は乾乳期の飼養管理などに問題がある場合もあります。あわせて、チェックするようにしましょう。

さて分娩難易と産子性別は、検定立会の際に、農家から検定員に報告する検定項目です。みなさんはきちんと報告されていますか？報告しなければ検定成績には掲載されませんので、今一度確認してみましょう！

繁殖台帳Webシステム(参照<http://liaj.lin.gr.jp/>)をご利用の方は、そこから報告することも出来ますので、ご活用下さい。

分娩難易

要注意	1	: 介助なしの自然分娩
	2	: ごく軽い介助
	3	: 2～3人を必要とした助産
	4	: 数人を必要とした難産
	5	: 外科的処置を必要とした難産または分娩時母牛死亡

産子性別

要注意	♂	: 雄分娩
	♀	: 雌分娩
	♂♂	: 雄の双子
	♀♀	: 雌の双子
	♂♀	: 雄雌の双子(フリーマーチン)
	3子	: 三つ子以上
	死産	: 産子死亡